



# 中小型株出遅れ修正へ

ヘッジFなど海外投資家が関心

東京株式市場は日経平均で8月26日の2万173円7  
6銭を底に反騰に転じ9月17日には10連騰と今年最大  
の連騰を演じた。上昇をけん引したのはエレクトロニクス  
の優良株やメガバンクや鉄鋼、海運大手に代表されるP B  
Rの低いバリューメ柄だが、そのような状況下で、成長性  
が高く業績が好調ながらも中小型株には物色の圏外へと置  
き去りにされている銘柄も少なくない。指數の上昇が一旦  
止まれば、これら中小型株の出遅れ修正を期待したい。

バーリ氏は8銘柄に買い

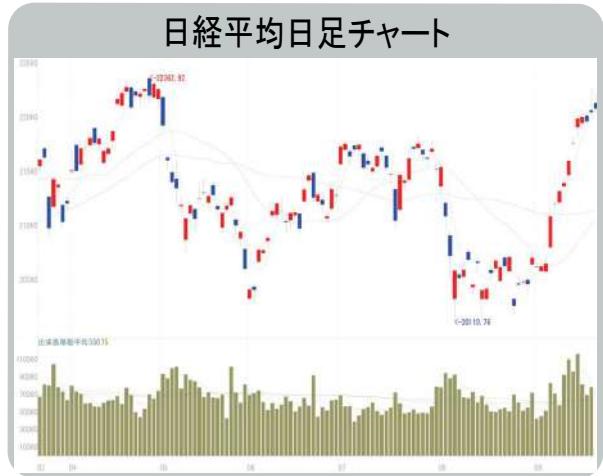
も日本株に対する姿勢の変化が目立ち始めている。

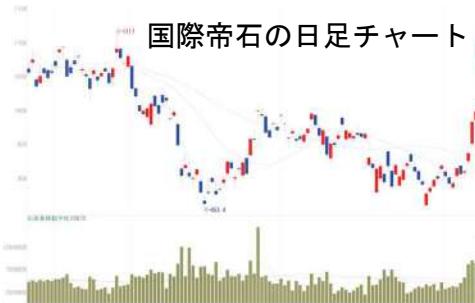
その代表例が米国のサブプライム住宅ローン破綻を予測し「世纪の空売り」がベストセラーになつたヘッジファンド投資家のマイケル・バリ氏。約3億4300万ドル規模の資産を運用するサイオジメント・アセット・マネジメントを率いるバリ氏は極度に過小

3精テクノロジーズ(6357)の7銘柄に投資したことが伝えられています。既に既に運営アンダーファンド不動産の運営も行なっています。

○最大7  
クス  
PB  
長性と  
一旦置  
海外の  
主要投  
資家に  
評価されている日本  
の中小型株が素晴らしい  
投資機会をもたらして  
いるとし、ト  
ーセイ(8923)、  
カナモト(9678)、  
アルプス技研(46  
41)、日本ピラ  
ー工業(6490)、  
村上開明堂(729  
2)、タツモ(62  
6)、ヨータイ(5

のトーセイは18年4月に付けた高値1529円に迫る水準にまで上昇しており、今後も同様に質の良い中小型に海外資金が向かう可能性がある。5月には米キヤピタル・リサーチがハーモニック・ドライブ・システムズ(6324)株を5%以上取得したことが話題になつたが、同社株も4月高値に迫る水準にまで上昇している。出来高増の中小型株はチャックしておきたい。





ソニー半導  
18日、ソニー(6758)が反落。米フ  
ンドのサードパーティからエンタテイ  
ンメントと半導体会  
社に分割、半導体事業  
を分離・上場する提  
案を受けたことにつ  
いて賛成しないと表  
明した。収益分野への  
経営資源集中がなさ  
れず、コングロマリッ  
トディスクiventの  
状況が続くとの見方  
から、失望売りに押さ

大豊工値下りトップ  
18日、大豊工業  
(6470) が東証全  
市場で下落率トップ。  
20年3月期第1四  
半期の決算報告書を  
期日の17日までに  
提出できず、上場廃  
止リスクを回避する  
売りがかさんだ。不  
適切な会計処理の疑  
いがある米子会社で、  
有形固定資産の減損

インパクト乱高下 18日、インパクト（6067）が乱高下。アリアを一時会計監査人に選任し、期限の9月27日までに19年12月期第2四半期報告書を提出できる見込みで、上場廃止を回避できるとしたことから朝方は買いが先行、大幅高に買われた後、報告書提出に懐疑的な見方が広がったよ

うで一転売り優勢になり大幅に下落した。

円を73・9%上  
公開価格74%上回る  
サイバーズの初値  
19日、サイバーズ(7069)が東証マザーズ市場に新規上場

初値をつけた。I 回る400円で  
n s t a g r a m  
ビスでインフルエ  
ンサーサーマークティ  
ングやSNSAカ  
ウント運用企画代  
行などソーシャル  
メディアマーケテ  
ィング事業を行う。

## 石油資源軒並み高

## サウジ攻撃で原油先物が急騰

休連け17国際石油開発帝士(16)5)や資源油(1)発(2)スコ王(5)ネルギ(0)、(1)

ラムコの施設2カ所が無人機による攻撃を受けた炎上。この影響で同国原油生産の半分以上、世界全体の5%相当が停止したことを受け、WTI原油先物が63ドル台まで急騰したことが材料視された

「高スクエア・エニックスとの共同開発スマホ向けゲーム「ドラゴンクエストウォーク」がApp Storeで、モンストやポケモンGOなど並み居る強豪を抑えて首位を獲得したことが材料視された。ボケモンGOを超えるヒット作になるとの期待が高まつた。

ヤーマン大幅減収減益  
が急落、年初来  
安値を更新した  
20年4月期の  
第1四半期決算  
は、連結売上高  
（前年同期比28・  
4%減）、営業利益  
7億5000万円  
(同66・5%減)  
と大幅な減益となつ  
たことが嫌気された

# 正直じいさんの株で大判小判

20日東京市場は続伸。9月末の配当権利取りも絡んで、買戻しの流れが続きました。3連休を控えて上値の買いは手控えられていますが、海外勢の日本株ウエート引上げによる中長期資金の流入が観測され、底堅い動きです。フシイミングで堅さを確認にも切り返す銘柄が増えていきます。推奨銘柄 和産業(8) ピード調整一巡 ター・マイカ(2) ラクス(392) きたオリンパス(7733) に打診買いを入れました。I POは24日のCha(t work(4448)のセカンダリーに期待です。花咲翁

## 正直じいさんの株で大判小判

### Chatworkのセカンダリ

000円を超えたこと

定の売りが出やすい夕

はあります。が、下値の

したことで、中小型株

す銘柄が増えてい

ます。では9月末高配当の明

103)がしつかり、ス

から切り返してきたス

975)が新値を追い、

3)も出直る動きです。

関連のヨコオ(680

0)が堅調で、高

値保ち合いを上放れて



## 企業觀察 大和ハウス工業(1925)

## 複合開発で付加価値化

大和ハウス工業（1925）の20年3月期第1四半期は、連結売上高1兆179億3600万円（前年同期比12・8%増）、営業利益923億9900万円（同22・7%増）と計画を上回り、2ケタ超の增收増益で着地した。商業施設や事業施設が引き続き拡大設計から施工までの一元管理による効率化効果も収益を押し上げ、1Qとして過去最高を達成した。高機能物流機能へのニーズは強く、今後も商業・事業施設が収益をけん引するが、一方で受注環境には不透明要因が多い。建築基準不適合問題についてはガバナンス

## 1Q計画上回り過去最高業績

強化を含めた再発防止策を徹底しているが、現時点では影響が残り、ローン減税など支援策は実施されるものの、消費増税やオリンピック開催後の景気動向も見通せない。戸建て住宅はハイグレード商品や賃貸併用、店舗併用住宅により販売単価を引き上げ、マンションはリノベーションによる中古流通に加え、駅前再開発など街づくりに関与して建て替え需要も取り込む。商業・事業施設はオフィスやホテルとの複合開発、物流施設はオフィスや製造機能を付与するなど付加価値を高めることで、売り上げを拡大、収益力を高めていく。

# サンバイオRMAT指定

の指定を受けた。

19日、巴川製紙所（3878）が一時ストップ高まで買われた。この日発売の四季報で子会社が製造する包装用紙ティーがアマゾンで採用と紹介されたことが材料視された。子会社の日本理化製紙が重ね貼り、捺印、筆記、印刷が可能なリカーテー等などを手掛けており、需要拡

包装用テープをアマゾン採用

大が期待された



アミファの初値  
19日、アミファ  
(7800)がジャス  
ダック市場に新規上  
場、公開価格660円  
を37・9%上回る  
910円で初値をつ  
けた。主にライフスタ

千代健は大幅続落  
田化工建設 19日、千  
続落。LNGが大  
ロジエクトの  
ートナー、米  
クダーモットの

## 個別物色の流れへ

先週の東京株式市場は4週続伸となりました。幅広く物色され、日経平均株価は一時2万2225円高値まであり、4月高値の2万2362円に迫りました。週前半は前週に引き続きバリュ一株に人気が集まりましたが、半ばからは売り長銘柄の買い戻しが主流となり、その間売られていたグロース銘柄が週末に人気化するという目まぐるしい展開。バリュ一銘柄の上値が重くなってきたこと4月高値に接近したことで、今週は段を付ける意味でも押し目形成による一が予測されます。

ただ、売り方の買い戻しが十分に済んだとは思えず、また、今週は4日立ち合いですが、25日が3月決算物の権利付き最終売買日となりますので、配当取りの買いにより深押しにははらないと思わ



れます。四季報秋号が発売されておりま  
すので、今週は個別物色が活発になるものと思  
われます。 **日々勇太朗**

日々勇太朗

## 今週の動意銘柄

ニイタカ  
4465

# 利益重視の経営推進 30年5月期売上高400億円標榜

ニイタカ(4465)は業務用洗剤・洗浄剤、固形燃料の製造・販売を展開、旅館や外食向けの固形燃料に関しては国内シェア6割以上とトップを誇り、フードビジネス業界の頼れるパートナーとして、ユーザーから厚い信頼を得ている。

環境にやさしく、コストパフォーマンスにも優れたパウチ包装タイプの高濃度洗剤・洗浄剤のラインアップを強化するとともに、食器洗浄機メンテナンスや衛生サービスなどのサポート体制をより強化することにより、大規模ユーザーの獲得や既存顧客からの受注増に取り組んでいる。20年5月期は混合・貯蔵タンク不要で省スペースを実現した「連続生産方式」

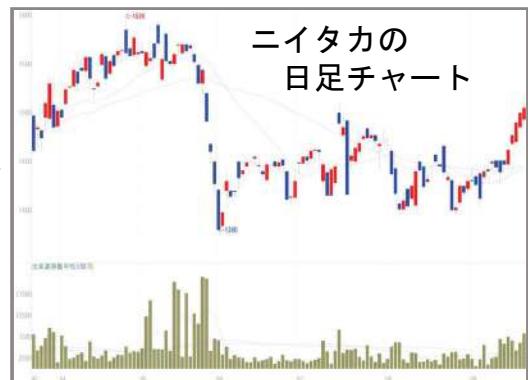
という新設備を7月のびわこ工場を皮切りに導入。加え

て海外では中国で第2工場の建設にも着手する方針で、利益重視の戦略を

M&Aにも意欲

推進、20年5月期は売上高180億円(前期比2.9%増)、営業利益12億円(同3.3%増)、純利益8億5000万円(同3.3%増)と增收増益を見込む。

M&Aにも意欲を見せており、22年5月期を最終年度とする新中期経営計画では連結売上高186億円、30年5月期には売上高400億円を標榜している。



## 特選銘柄

10月26日(土)第3回 株式セミナー in大阪

## 「日本株は長期トレンドで選べ」

主催：証券市場新聞 申込はTEL06-6105-1904またはinfo@marketpress.jpまで！

参加料：無料 先着40名 講演会後は懇親会を予定

ヘッジファンドの売買手口で先を読む  
大化け特選3銘柄を教えます！

数々の株式コンテストで優勝した岡山憲史さんが登壇

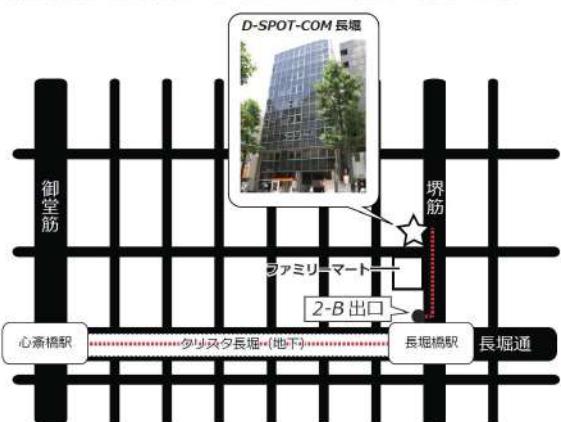


岡山憲史氏(株式会社マーケットバンク代表)1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」約1万人の参加者の中から優勝のほか、多くのコンテストで優勝。1カ月間の3銘柄合計パフォーマンス15.5%と断トツ。週刊現代や週刊ポスト、ネットマニー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行い、個人投資家に投資情報サービスを提供。

会場:D-SPOT-COM長堀セミナールーム

大阪市中央区南船場2丁目3-6第一住建長堀橋駅前ビル1階  
【TEL】06-6105-1904

堺筋線・長堀鶴見緑地線長堀橋駅 2-B出口 徒歩1分  
御堂筋線心斎橋駅 クリスタ長堀経由 徒歩5分



# 潮流

# 9月 権利付き銘柄が狙い目

# 配当と優待利回りにも目を向ける



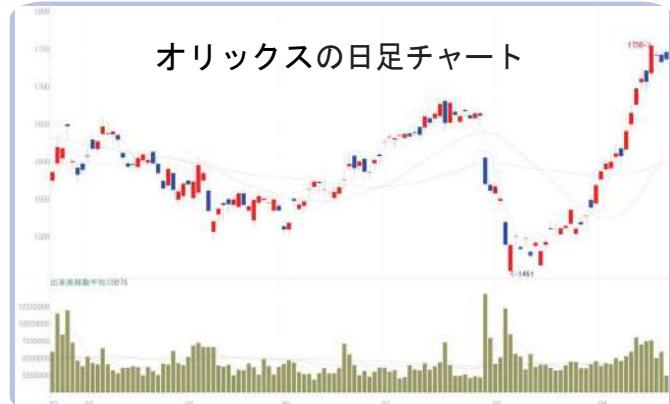
日経平均構成銘柄のうち、配当利回りの高い50銘柄で構成する「日経平均

「高配当株50指数」は9月に入って日経平均をアウトパフォームする動きとなっている。

9月末は権利確定銘柄が400銘柄を超え、3月に次いで2番目に多い。さらに、配当利回りだけではなく優待銘柄にも目を向けると良いだろう。例えば9月中の権利確定銘柄のうち、「ギフト券」だけでも200銘柄超もある。これらの銘柄の優待利回りを金額換算して単純平均すると、配当利回りに対して11%強を上乗せできる計算だ。エスクリ（2196）は披露宴を予約した場合に30万円分のウェディングアイテムがもらえるため換算利回りが730%と相当高くなっている。

建築工事代金や分譲マンションの購入代金のキャッシュバックなどが受けられる大東建託（1878）は131%とかなり高い。ただし、こうした銘柄は実際に結婚式の予定があったり、家の購入予定があったりすれば利用価値は高くなるが、関係のない人には無意味だ。

一方で、クオカードは現金と同じように考えやすい。ショーエイコーポレーション（9385）は9月末で1000円分のクオカードがもたらえ、保有期間などの縛りもない。優待利回り



だけで2.65%で配当も加えれば5%超になる。優待回数を今年から増やし金額も増額したEストアー(4304)もクオカードで1000円分の優待だが、優待と配当の利回りは5%を超える。

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて約1万人の参加者の中から優勝。直近では2017年1月に始まつた夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。<http://marketbank.jp>



岡山 憲史氏（株式会  
社マーケットバンク 代  
表取締役）のプロフィ  
ール

や優待利回りも魅力だが、株価の値動きも大切だ。9月末の権利確定銘柄のうち、9月に入って52週高値を更新した銘柄は18社ある。中でも注目すべきは鉄道銘柄だ。ディフェンシブ性を兼ねる点が強みになる。京成電鉄(9009)はオリエンタルランド(4661)の株価上昇で含み益への期待が広がり、今年1月からの上昇率は29%にもなる。約27年ぶりの高値水準にある名古屋鉄道(9048)はリニア新幹線の導入を視野に進む再開発への期待を織り込む動きが活発化しており、年初からの上昇率は15%超と高い。株価が上昇すれば配当利回りは小さくなるが、それ以上にキャピタルゲインが大きい。さらに、保有銘柄の鉄道を利用していれば株数に応じて回数券式の乗車券が使えるので魅力的だ。

潮流銘柄はオリックス(8591)、オープンハウス(3288)、キング(8118)。

# 52週高値更新銘柄18も

# チャートから読む 脱落銘柄

## オールアバウト(2454)



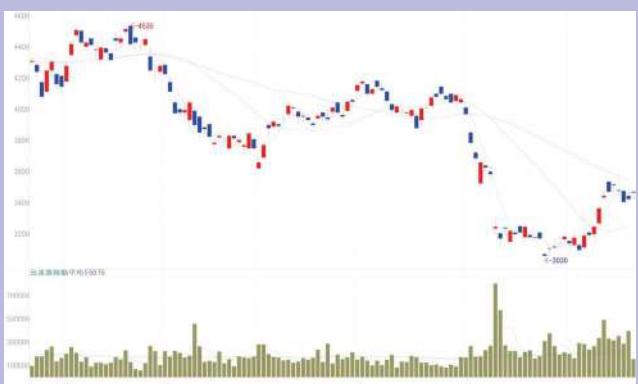
8月中旬に670～680円台でもみ合った後に9月2日に732円まで急伸し、その後は700円台で底堅い動き継続。730円台を抜ければ3月22日高値783円を目指す動きに期待したい。

## 寿スピリッツ(2222)



8月22日に実質最高値7070円を付けたあと、25日線割れまでの下落で目先調整完了。急速に出直り日足ゴールデンクロスの方向で、大勢上昇トレンドのなか好業績と好取組みテコに青空相場を一段高へ。

## 力ネ力(4118)



8月26日の3030円を底に出直る動きながら50日移動平均線手前で上値が重くなる。貸借倍率4.51倍で16万4500株の買い残も重石。カセイソーダの中国での需要減少も先行き懸念材料。

## シーイーシー(9692)



不適切取引疑義発生に伴う四半期報告書提出期限延期を嫌気して急落。6月12日に空けた窓埋め完了も、下値抵抗帯を割り込み、一段安へ警戒強まる。押し目買いに信用買い残が積み上がるなど需給も重荷。

※チャートは日足

# 今週の

# 活躍期待 銘柄



## オハラ(5218)

## 来10月期収益V字型回復へ

光学ガラス老舗メーカーで生産量は国内トップを誇りセイコーやキヤノンが大株主で経営も安定している。7月9日の年初来高値1658円奪回を期待したい。(と)

オハラ（5218）の株価は9月11日に1587円まで急伸したあとに業績下方修正から12日に1289円まで急落したが、すかさず出直る動きになってきた。

今19年10月期の通期予想については連結営業利益で15億円から13億円（前期比60・3%減）へ下方修正しているが、これは耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「チノセラム」のスマートフォン向け商流確立が来期にズレ込むため。極低膨張の「クリアセラム-Z」の需要回復も今後見込まれることから、来期は前期に計上した32億700

## スマホ向け「ナノセラム」拡大



## アドソル日進(3837)

## 1Q快調で大幅上振れ期待

基盤、EVや自動運転など次世代自動車分野、キヤツシユレス基盤システムなども伸びている。  
2 Q計画に対する進捗状況からも通期は大幅な上振れが期待され、青空相場を一段高へ進みそうだ。  
(次)

アドソル日進（3837）  
高値保ち合いを上放れ、株式  
分割を考慮した実質最高値2  
366円を射程に捉えてきた。  
社会インフラを主体とした  
ICT企業で、優位性を持つ  
エネルギー分野では電力・ガ  
ス自由化後の保守や事業再編、  
新サービスに向けたシステム  
開発需要を取り込み、通信・  
ネットワークも5Gを中心には  
基地局関連が順調に推移。2  
0年3月期第1四半期は連結  
売上高31億6200万円（前  
年同期比10・9%増）、営業  
利益2億9500万円（同  
23・3%増）と快調な  
スタートを切った。さら  
に、制御システムもメデ

# 保合い上放れ青空相場へ

※チャートは日足



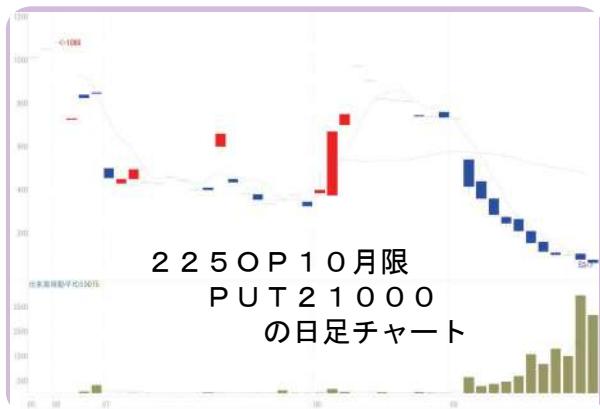
## 敏腕先物ディーラー

## ハチロクの裏話

## ハチロクのプロ フィール

## 証券アナリスト から証券会社の法 人部長を経て、2

25先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの安定した運用実績を誇る。



あるが、そのうち1ヶ月後には下落していたのは1回だけである。通常、RSIが70%を超えてくると警戒感から調整入りするケースが多いが、90%以上まで買われるというのは、それだけ実需の買いが入つて、需給面で中長期的な買いが入つてきているということだろう。

実際、テクニカルを重視するシステムトレードでは「売りサイン」が続いており、これらを信じてトレードする投資家はこの上げ相場で大敗しているようである。過去のアーマリーからするとRSIが

90%以上になつた場合は1ヶ月後平均で4・8%上昇している。今回のケースを当てはめると、13日に90%台に乗せており、その時の株価が2万1988円であつたので、1ヶ月後2万3043円まで上昇していることになる。消費税増税の影響も現れてくるその頃に悪材料を織り込んで上昇しているのか注目したい。

今週は2万1600円から2万2400円の間で上がれば売られ、下がれば買われる相場を想定する。

先週の日経平均は高値揉みあい状態となつた。注目されていたFOMCは大方の予想通りの0・25%引き下げで決定した。イベント通過で19日には日経平均は2万2255円56

錢と4月24日の高値（2万2362円92錢）まで迫つたが、日銀の政策会合で現状維持の結果が伝わると失速、結局2万2000円を挟んで揉み合う週となつた。イラン

# RSI 90%超えのアノマリー

1ヶ月後は  
2万3043円?  
円

ア 精油施設への攻撃により一時円高に動き、日経平均が下げる場面もあつたがすぐに戻し「下がりそうで下がらない」状況である。



(ハチロク)

1号店は開店前に宿泊させてもらつたが、地元とはいえ気分転換するには良い機会になつた。2店目の開店も楽しみにしている。



東心斎橋から難波にかけてのアーケード街は多くの外国人観光客が訪れる。最近は日韓関係の悪化で、韓国からの観光客が減少しているのでは?と思つて2店目の出店リスクを聞いてみたが、自己での就職難から日本へは就職活動目的での長期滞在も多いらしく、格安で一人で気軽に宿泊できることで、ホステルは重宝されるそうだ。色々、マスコミで報道されているが、政治家の国家運営に關係なく、現実を冷静に見つめて行動する若者が少なくないと感じた。

# 星野三太郎の 株街往来 ～2店目のホステル

# 星野三太郎の 株街往来 ～2店目のホステル～

## ～2店目のホステル～

先週はフア

## 企業レター

## New product

## 新型名阪特急「ひのとり」

近鉄GHD

20年3月14日から運行



近鉄グループホールディングス（9041）と近畿日本鉄道は、「くつろぎのアップグレード」をコンセプトに日本で初めて全席にバックシエルを設置するなど、車内の

居住性を大幅に向上させた新型  
名阪特急「ひのとり」を20年  
3月14日から運行する。

# 秋のおすすめ商品

## グループ店舗で期間限定販売

グルメ杵屋(9850)は「秋のおすすめ」として「杵屋」、「丼丼亭」、「麦まる」、「おらが蕎麦」、「そじ坊」などの店舗で期間限定商品の販売を行っている。

秋のおすすめ 「杵屋」では秋の彩食として、杵屋チャンポンうどん定食や秋の季節天丼定食など、「麦まる」では、秋うどんとしてピリ辛酸辣湯うどんとカレーライスセットなど、「丼丼亭」ではSABARとのコラボメニューとして漬け鰯丼、「そじ坊」、「そば野」、「結月庵」の3店では秋の味わいとしてサーモンいくらご飯定食などを、「おらが蕎麦」では秋のおすすめとして舞茸とさつま芋のバラ天ぶっかけそばなどを発売している。

## 良い意味の調整待ち

## 2月期2Q決算企業の動向注視

た米FRBは0・25%の利下げを行い、その後のパウエル会見の内容には賛否両論があるものの、イベント通過で安心感が高まっている。

今後の注目点は米中通商交渉の動向。19日から行われている次官級協議では、中国による米国産大豆などの大幅な購入拡大を含め、農業問題が重点的に話し合われていると報道されている。知的財産権保護や米国から中国への技術移転強要

キホールドイングス  
(7649) やあさ  
(3333) を皮  
切りに2月期企業の  
第2四半期決算発表  
が本格化する。因み  
にスギHDは第1四  
半期で18・6%の  
大幅営業増益を達成  
しており、好決算へ  
の期待が高い。ただ  
同社を含めて小売売  
が多い2月企業は1  
0月からの消費増税  
の影響を第3四半期

## 当面のスケジュール

- ・23日 8月シカゴ連銀全米活動指数  
(21:30)
  - ・24日 独9月Ifo景況感指数(17:00)  
米7月FHFA住宅価格指数、米7  
月S&PコアロジックCS住宅価格  
指数(22:00)  
米9月CB消費者信頼感指数  
(23:00)
  - ・25日 7月29・30日開催の日銀金融政  
策決定会合議事要旨  
8月企業向けサービス価格指数  
(8:50)  
9月末権利付き最終日  
米8月新築住宅販売件数  
(23:00)
  - ・26日 全国証券大会で黒田日銀総裁  
挨拶  
米4-6月期GDP確定値(21:30)
  - ・27日 米8月個人所得・個人支出、米  
8月耐久財受注(21:30)

場合 米中協議への期待感  
後退にマーケットがどう反応するか注目したい。いざ応するか注目したい。いざ  
れにせよ高値警戒感から良い意味での調整を待ちたい。  
3連休明けは26日の権利付き最終日へ向けて9月  
配当・優待銘柄の物色となる。そして、24日のス

以降の業績にどう織り込まれる。25日の西松屋チェーン(7545)、  
クスリのアオキホールディングス(3549)、27日のケーヨー(8168)  
やDCMホールディングス(3050)あたりが注目される。

格化全般大幅水準訂正が好取組み銘柄への買戻しを誘い、グロース株も短期間の調整で切り返した。週明けからも9月末配当権利取りの買いに底堅い動きが予想されるが、それだけに権利落ち後の動きが気になる。

などは 1回の セッセイ ョンで しか協議されていらない模様。農業分野に限定された一時的な妥結となつた。



前週の東京市場は10連騰と今年の最長不倒を記録した。裁定売り残が過去最高水準に積み上がっていたことから、弊紙コラムを執筆するハチロク氏や日々勇太郎氏などプロの間では意外高の可能性が指摘されていたが、売り込まれてきたバリュー株の巻き返しが本

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。